
でんせつのまおうがあらわれた！

もりこ。

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

でんせつ の まおう が あらわれた ！

【コード】

N0297M

【作者名】

もりこ。

【あらすじ】

その手には伝説の聖剣を。

その胸には平和の意志を。

その背には仲間の信頼を。

ついに最終決戦を迎える筈だった人間と魔物の闘いはあまりに風変わりな魔王の手によって誰もが予想しない展開へと奔走する ！？

物語はまったく完結しないので御注意ください。

(前書き)

良くあるファンタジーの世界観です。頭を使わずにサラッと読んで見てやって下さい。

魔物達の住む呪われた大陸の深奥にある、かつて魔王が君臨していたという魔城。

そう、俺はとうとう辿り着いたのだ。

思えば長い道程だった。

前大戦にて魔王が討ち取られ世界に平和が訪れて6年後、突如として魔物の進行が再開した。

当時、田舎で家の農業の手伝いをしていた俺は徴兵されて王都に行く事になった。

「国の為に働くのも悪くないか」なんて兵士として働くつもりだったのだが、成り行きでうっかり触ってしまった聖剣の所有者に選ばれてしまい、僅か2日で下っ端兵士から勇者にクラスアップしてしまった。

随分と時間は掛かったが、かけがえの無い絆で結ばれた仲間と共に幾度も訪れる危機を乗り越えて来た今、もはや魔王など敵では無い。

「さあ、行くわよ?」

二刀流の凄腕女剣士、ユーコが何の気負いも無さそうな、とても気軽な風に笑いながら言った。

「勇者さん! 行きましょー!」

少し頭が固いが法術の使い手としては大陸随一の天才少年、リーロが気合いの入った、しかし幼げな声で言った。

「……見敵必殺」

とても小さな、しかし殺意の籠った冷淡な声音で呟いたのは、余りに高過ぎる魔力故に少しばかり情緒不安定でたまに敵味方を問わずヒヤッとさせてしまうサリアだ。

「これが最後の闘いだ…！」

○ ○

「気合い入れて突っ込んでみたらこの有り様って…あたし、悪い夢でも見てるのかしら」

ユーコが額に手を当てながら言った。

「正直俺も意味が分からん」

状況を三行で説明するならこうだ。

魔城に突撃したら

魔物達が友好的な態度で

現在食事中

……何だろっ、文章にするとますます現実味が無くなってきた気がする。

「しばし待たれよ。じきに我が主が参るのでな」

パツと見た感じ人間と変わらない 更に言うなら黒髪黒目で不自然な程に整った顔立ちの男が不機嫌そうに言った。「何故：我がこの様な執事の真似事など…」と呟いているのを見てコイツはきつと根は良い奴なんだな、と俺は直感的に思った。

改めて辺りを見回すと分かるのだが、この広間には何人も居るメイドや執事は皆無理矢理着せられているような感じがする。

一部ノリノリな奴も居るが、大抵はさっきの執事モドキと同様に不満気であったり、あるいは恥ずかしそうにしている。

ふむ。なまじ見てくれは人間と変わらんし、無理矢理メイド服を着せられた女性というのは中々そそられるものが

「死ぬか？」

「……下衆」

両サイドの女性陣から殺気混じりの視線が突き刺さったので取り敢えず視線を扉に向ける事にした。早く来いよ魔王、俺はストレスで死にそうだ。

なんて考えた瞬間だった。

今この瞬間まで誰も居なかった筈の向かいの席に女が1人座っていた。

反射的にユーコが右の直刀、左の曲刀を抜いて飛び掛かる しかし、跳躍の際の僅かな溜めの時間を突いて先程の執事モドキが後ろ

から彼女の椅子を蹴り払う。

体勢を崩したユーコの身体を迂回する様に幾条もの炎弾がテーブルの向こうに座る女に迫るが、着弾の直前でグルリと弧を描いてサリアの元へと舞い戻る。

しかし、リーロが展開していた結界に触れるとそれは音も無く霧散していった。

一瞬の間を置いて、再び攻防が繰り広げられようとしたその時だった。

「その辺でいいんじゃないのかな？」

「その辺でいいんじゃないのか？」

テーブルを挟んで向かい合った2人、俺と女の声が同時に部屋に響いた。

思わず固まる魔物と人間。

何だか、何もかもが可笑しく思えてしばらく俺と女は声をあげて笑ってしまった。

「…いや、思ったより話せる奴みたいで良かったよ、魔王」

「君もあんまり粹に囚われてない感じがして私も安心したよ、勇者くん」

これは後に語られる事の無い、伝説の魔王と平凡な勇者のお話。

(後書き)

まったく完結していない話で済みません…

何かファンタジーが書いてみたくなって、つい触りの部分だけサラッと書いて投稿しちゃいました。

もし感想などで続きのリクエストがあつたりなんかした時は少しだけ手を加えてから連載もしてみようかな、なんて考えていたりしますので、もし物好きなお方いらっしゃいましたら評価はともかくご意見、ご感想の方、宜しくお願いいたします！

ではでは。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0297m/>

でんせつのまおうがあらわれた！

2010年10月8日22時23分発行